



飯館村ホッププロジェクト 飯館産ホップでビールをつくねー。

東京大学の院生と学部生約20人の有志グループが、上飯桶地区の畑を借りてホップを栽培。8月27日に約8kgを収穫し、福島市のクラフトビール醸造所「イエロービアワークス」でビールを仕込みました。

震災直後から飯館村の復興支援を続ける東京大学。ホップの近縁種「カラハナソウ」が村内に自生していることを確認していく、涼な気候を好むホップを村内で栽培する企画が浮上しました。プロジェクトの代表の1人で大学院2



他大学の学生らも参加した収穫作業。前の6人がプロジェクトメンバーで最前列右から2人目が志賀さん、3人目が共同代表の畠上さん。



醸造所にて。ホップを計って手でちぎり麦汁に加えます。

今日は「カスケード」「マグナム」の2品種を中心に、9品種ほどのホップを栽培。気象や生育状況を定点カメラで観測しながら、毎月村に通つて作業を続けてきました。そして迎えた収穫の時。摘みた

年の志賀智寛さんは、学部生時代に「東大むら塾」で活動し千葉県富津市でホップの栽培とクラフトビールの商品化を実現しています。

経験を活かしてプロジェクトの牽引役を担い、専攻同期の畠上太陽さんと共同代表を務めます。

志賀さんは来年以降もホップの栽培に関わりながら次の代へ活動を引き継ぎたいと考えています。「継続してこそ意味がある。耕作放棄地がホップ畑になり、やがて産業となり、帰村・移住をする人が増えていく、そんな未来につながるボテンシャルがホップにはあると思います」。『飯館ホップ』のビールを大勢で囲んで乾杯できる日が待ち遠しくなります。



ての生ホップを使ってフレッシュホップビールを仕込みます。「ビールをきっかけに村のことを知つてもらえたならうれしい、何より村の皆さんに楽しんでほしい」。約200Lのビールが10月に完成する予定で、「こよだて秋まつり」に合わせたお披露目を含め販売方法や活用機会を検討しています。「村の皆さんのが喜ぶ顔が見たい。一緒にワクワクしたいと思う気持ちが大きいです」と志賀さん。ビールを囲み語らう日を思い描きます。

志賀さんは来年以降もホップの栽培に関わりながら次の代へ活動を引き継ぎたいと考えています。「継続してこそ意味がある。耕作放棄地がホップ畑になり、やがて暮れのにおい、生き物たちは、変わることなくこの場所にあり続けてくれます。もうすぐ夏も終わりますが、これからも飯館村の優しい夏が来年、

〈編集後記〉

再来年と続いていく」と願っています。(巻野)

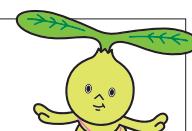
私が好きな曲の中に、こんな一節が出てきます。
「カエルの声、虫の声、夕方5時の帰り道のサイレンも、あの約束も、忘れないことばかり」この一節を聞くと、飯館村の夏が頭に思い浮かびます。

移り行く日々の中で、夕暮れのにおい、生き物たちは、変わることなくこの場所にあり続けてくれます。もうすぐ夏も終わりますが、これからも飯

- 気象警報・注意報や緊急性の高い防災情報をリアルタイムで配信。頻発する災害に情報を役立てよう!
- 発行日にアップされる広報を手軽にチェック!
- 開催間近のイベント情報をリマインドするよ!

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613

LINE
飯館村公式
アカウント



防災情報配信中
ぜひご活用を!

↑お友達登録はこちらから